

# 敬大SPORTS Vol. 18

## CONTENTS

Page

- 石原 昂インタビュー ①
- 体育会会長 あいさつ ①
- バレーボール部 ② ③
- 少林寺拳法部/硬式テニス部 ② ③
- 敬愛大学体育会活動報告会 ④

● 敬愛大学体育会発行 ● 〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21 TEL.043(251)6363 ● March 23,2020



**現在本塁打通算12本 ホームラン記録更新を狙う**

春季シーズンに入る前に、右手の小指と薬指の間にある有鉤骨を骨折して、ほぼ練習をしていない

野球をやりたいかと思っています。リーグ戦が一番アピルできるので、そのために2020シーズンの試合を頑張ります。チームとしての目標は、もちろん悲願の1部リーグ優勝です。

将来はプロ野球でも社会人野球でも、とにかく野球でやっていきたいです。記録を塗り替えて、千葉県に名前を残せたいですね。

2019シーズンは春季・秋季ともに優勝した強豪の城西国際大学にあと一歩というところまで迫り、僅差で競り負けました。上位入賞のAクラスが見えていただけに、2020シーズンにかける強い思いをチームのみんなが持っています。自分たちには何が足りなかったのか、徹底的に話し合いました。一番大きいのはピッチャーと野手がかみあっていなかったこと。ピッチャーの調子がいいときは野手の調子が悪くて、野手の調子がいいときはピッチャー

**春季はケガで戦線離脱 手術を経て秋季戦で復帰**

の調子が悪い。その波をリンクさせるためには日頃からコミュニケーションをきちんと取って、お互いのリズムを把握することが大切。その雰囲気を作ることも主将である僕の役割です。投手野手、先輩後輩は関係なく、いいところはいい、ダメなところはダメと腹を割って指摘し合って、お互いを理解するようにしています。敬愛大の野球部は、みんな底抜けに明るいのがいいところ。この明るさを原動力にして、よりよいチームにしていきたいですね。

個人としては2019年度秋季リーグで、首位打者・DH賞・三冠王打率・462、本塁打3本、打点10)を獲得しました。とはいえ、年間を通して調子がよかつたわけではありません。春季シーズンではケガをしていて右手が痛み、手術をするために途中で戦線を離脱しました。

状態が春季に入りました。痛み止めの薬を飲みながら試合に出ていましたが、2節目を終えた頃にはどこにも痛みが取まらなくなつて手術を決定しました。術後は怖いという気持ちもありましたが、あえて気にしないようにして、春は思うように野球ができなかったのだから「秋はやつてやろう！」という気持ちで秋季シーズンに臨みました。

シーズン中、ホームラン数と打率は分かっていたので、首位打者DH賞は狙えると思いましたが、打点は分らなかったの、「三冠王をいただきたい時には「えーっ、三冠王だったんだ！」と驚きましたね。僕が得意なのはホームランで、ストレートで速い球が、好きです。調子がいいときは球が全部同じスピードに見えて、どんな球が来ても打てる気がするんです。現在トータルで12本打っています。千葉県大学野球リーグのホームラン記録は16本。これまで、毎年だいたいホームランは4本打つていたのでタイ記録、さらには記録更新に向けて、「ワンチャンあるかも」と狙っています。記録を塗り替えて、千葉県に名前を残せたいですね。

将来はプロ野球でも社会人野球でも、とにかく野球でやっていきたいかと思っています。リーグ戦が一番アピルできるので、そのために2020シーズンの試合を頑張ります。チームとしての目標は、もちろん悲願の1部リーグ優勝です。



## 快拳！首位打者・DH賞・三冠王を獲得 石原主将。2020シーズンは千葉県のホームラン記録更新を狙う。

**野球部 主将 石原 昂**  
Ishihara Noboru

Profile  
1998年生まれ 神奈川県出身 経済学部3年  
小学校4年生から野球をはじめ、中学時代は横浜旭ヤングベースクラブに所属。湘南学院高等学校出身。敬愛大学では、1年春から4番を打つ。184cm、右投右打、守備はサード。

## 2019年度 敬愛大学体育会所属クラブ活動報告(大会結果等)一覧

- 少林寺拳法部 ▶**
- 第56回少林寺拳法関東学生大会 (5月4日 日本武道館)  
男子単独有段の部 近藤 本選10位 鷗澤 予選16位  
男子組演武三段以上の部 伊藤・及川組 予選7位
  - 2019年度千葉県大会 (6月30日 船橋アリーナ)  
大学生男子の部 近藤・岩崎(千葉商大)組 本選2位  
全国大会出場決定(11/23・24愛知)  
及川・伊藤組 本選3位
  - 第71回少林寺拳法千葉市民大会 (7月7日 千葉ポートアリーナ)  
一般有段演武の部 近藤・平松(千葉宮野木道院)組 本選出場  
及川・伊藤組 本選出場
  - 第53回少林寺拳法全日本学生大会 (11月4日 千葉ポートアリーナ)  
男子組演武二段の部 近藤・伊藤組 予選5位  
単独有段の部 及川 予選6位
  - 2019少林寺拳法全国大会inあいち (11月23日~24日 スカイホール豊田(愛知県豊田市))  
大学生男子の部 近藤・岩崎(千葉科学大学)組 予選出場

- 女子バレーボール部 ▶**
- 令和元年度春季関東大学女子2部リーグ戦 (4月~5月 大東文化大学)  
8勝2敗 2位  
【個人賞】  
敢闘選手賞・スパイク賞 古川ほのか(4年)
  - 入替戦 (5月25日 駒澤大学玉川キャンパス)  
松蔭大学(1部11位) ○3-1● 敬愛大学(2部2位) 2部残留
  - 第38回東日本バレーボール大学選手権大会 (6月25日~ 札幌市東区体育館他)  
1回戦 札幌大学 0-2 敬愛大学  
2回戦 東北公益大学 1-2 敬愛大学  
3回戦 日本大学 2-1 敬愛大学(ベスト16)
  - 令和元年度秋季関東大学女子2部リーグ戦 (9月~10月 神奈川大学他)  
5勝5敗 5位
  - 第66回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 (11月 大田区総合体育館)  
1回戦 神戸親和女子大学 3-0 敬愛大学

- 野球部 ▶**
- 令和元年度千葉県大学野球春季リーグ戦(1部) (4月~5月 ZOZOマリンスタジアム他)  
6勝7敗 勝点2 5位  
【個人賞】  
ベストナイン 外野手 大屋洸史郎(4年)  
敢闘賞 松本雄飛(4年)
  - 令和元年度千葉県大学野球新人戦 (6月 帝京平成大球場他)  
1回戦 城西国際大学 1-2 敬愛大学  
2回戦 清和大学 3-5 敬愛大学  
準決勝 国際武道大学 10-0 敬愛大学(6K)
  - 令和元年度千葉県大学野球秋季リーグ戦(1部) (9月~10月 城西国際大学球場他)  
4勝9敗1分 勝点1 5位  
【個人賞】  
首位打者 石原 昂(3年)  
DH賞 石原 昂(3年)  
三冠王 石原 昂(3年)  
ベストナイン 一塁手 秋葉 大地(2年)

- 硬式テニス部 ▶**
- ◆男子成績
  - 千葉県学生テニス対抗戦(団体戦)(5月~7月 各大学テニスコート)  
【男子2部リーグ】※4部リーグ制(1リーグ当たり4大学構成)  
1回戦 対 明海大学 4-5 敗退  
2回戦 対 千葉工業大学 5-4 勝利  
3回戦 対 流通経済大学 5-4 勝利  
2勝1敗 2部準優勝(6位 16大学中)
  - 関東学生テニスリーグ(団体戦)(8~9月 各大学テニスコート)  
【男子7部リーグ(予選)】※7部リーグ制  
1回戦 対 首都大学東京 1-8 敗退  
2回戦 対 東京工科大学 5-4 勝利  
1勝1敗 予選敗退 (予選リーグ2位)
  - 関東学生テニス対抗戦(団体戦)(11月中 各大学テニスコート)※無差別リーグ  
1回戦 対 東京理科大学(4部B) 4-1 勝利  
2回戦 対 駒澤大学(2部A) 0-5 敗退  
3回戦 対 順天堂大学(6部C) 1-4 敗退  
1勝2敗 予選敗退(予選リーグ3位)  
実力:A)B)C
  - 千葉県学生テニストーナメント大会(個人戦)(11月~2月 各大学テニスコート)  
現在大会中

- ◆女子成績
- 千葉県学生テニス対抗戦(団体戦)(5月~7月 各大学テニスコート)  
【女子リーグ】  
1回戦 対 中央学院大学 5-2 勝利  
2回戦 対 帝京平成大学&千葉工業大学連合 大会規定のっとり不戦勝  
3回戦 対 淑徳大学 大会規定のっとり不戦勝  
4回戦 対 千葉大学&千葉商科大学&流通経済大学連合 2-5 敗退  
5回戦 対 東洋学園大学 大会規定のっとり不戦勝  
優勝 (4勝1敗 同順位大学1大学あり、ポイント差による)
- 関東学生テニスリーグ(団体戦)(8~9月 各大学テニスコート)  
【女子5部リーグ(予選)】※5部リーグ制  
1回戦 対 東京経済大学 1-6 敗退  
2回戦 対 東京工業大学 5-2 勝利 1勝1敗 予選敗退(予選リーグ2位)
- 関東学生テニス対抗戦(団体戦)(11月中 各大学テニスコート)※無差別リーグ  
1回戦 対 法政大学(2部A) 0-5 敗退  
2回戦 対 横浜国立大学(5部A) 0-5 敗退  
※7人制の団体戦に対し、本学女子部員4名登録のため、関東学院大学(1名)、明星大学(2名)の3大学連合チームとして出場  
実力:A)B)C
- 千葉県学生テニストーナメント大会(個人戦)(11月~2月 各大学テニスコート)  
シングルス ・男子大会中  
・女子 準優勝 杉田菜々子、4位 中山有希

- フットサル部 ▶**
- 2019フットサル千葉カレッジリーグ(4月~11月 ゼットフットサルスポーツ南船橋他)  
1勝6敗(勝ち点3) 8チーム中8位

## 敬愛大学体育会活動報告会開催



2019年12月18日(水)「敬愛大学活動報告会」が開催されました。開会挨拶として、覺正学生部長が挨拶を行い、参加した学生に向けて「学業・部活動ともに一年間よく頑張った。残念ながら祝賀会ならずという結果に終わったが、この報告会を通じてスポーツマンであることの誇りを再確認し、来年度に向けて取り組んでほしい」と励ましのお言葉がありました。

各部の代表者がそれぞれの年間の活動を報告する中では、時折、厳しい表情をする部員もいるなど、真剣に部活動と向き合っている姿がみえました。

次年度においても、体育会一丸となって学業・部活動を文武両道で邁進していくことを胸に、報告会は終了しました。

## 会長 あいさつ

ラグビーと「ワンチーム」

昨年、ラグビーW杯が代表チームの活躍で大いに盛り上がり、新語流行語大賞には、日本代表のスローガンだった「ワンチーム」が選ばれました。「ワンチーム」の意味は、異なる文化背景を持つ選手たちがお互いを理解、尊重し、且つ、全員が目標を共有し、7カ国の出身者で構成される代表チームが一つにまとまることです。この意識がないと、日頃の厳しい練習に励み、鍛錬し続けることは困難で、海外有力国にも対抗できません。目標についても、前回大会で逸したベスト8進出を共有したいと思えます。

ラグビー選手15人はポジション毎に役割が決まっております、各人が役割を果たしつつ協力し、得点(あるいは阻止)に向かって戦っています。また、試合中、監督は観客席で戦っているため、試合が始まるからの作戦やプレーの判断は選手が行います。従って、グラウンドでは選手同士が作戦を立て、コミュニケーション良くサイン等で伝達し、チームワークを可能とします。日本代表は「ワンチーム」として厳しい鍛錬を経て、見事なチームワークで目標を達成し、また多くの観客を感動させました。

ところで、日本ではラグビー精神として「One for All, All for One」があります。この意味するところは、「人はみんなのために、みんなは一つのために」ですが、後半を「みんなは、人のために」と誤解されることもあるようです。



少林寺拳法部  
経済学部3年

# 近藤 祐一

6月開催千葉県大会 2位  
11月開催少林寺拳法全国大会 出場



**高校生も敬愛大生も見学・仮入部歓迎!**

部員3名と少人数ながら、関東学生大会に出場し、演武で伊藤、及川組が予選7位、僕が本選10位。さらに僕が全国大会に出場するなど少数精鋭で奮闘しています。

敬愛大学少林寺拳法部の最大の問題は部員の少なさです。なんとか部員を増やそうと、3名がそれぞれの出身高校に声をかけたりして、入学や入部を誘っています。

僕は入学した桜林高校にたまたま部があったので、そこから少林寺拳法を始めました。敬愛大学に入学したのは、強豪が多い東京都の大学よりも、千葉県の大学の方が全国大会へのチャンスがつかみやすいと考えたからです。もちろんそれだけでなく、敬愛大は、広い武道場が完備されていて、他の部活とカブらずに、静かな環境で練習に集中できるのがいいところです。高校生でも敬愛大生でも、少林寺拳法を続けたい、あるいは始めたいという人は、ぜひ一度武道場に見学に来てください。

**自己確立・自他共栄の心を大切に**

昨年の個人の成績では、2019年6月に行われた千葉県大会で千葉商科大学の岩崎君とペアを組み本選2位になり、11月に行われた少林寺拳法全国大会inあいちに出場することができたのが大きな成果です。岩崎君は桜林

高校でもペアを組んでいて、お互いにスピードがあって、突きや受けのタイミングがぴったり合うのが強みです。2020年大会でも岩崎君と組み、まずは関東大会で6位入賞を果たすことが目標です。

就職活動もはじまりますが、僕は自衛隊に入ることを考えています。身体を張って国を守り、人を助けたいと思うからです。東日本大震災での自衛隊の活動に対する尊敬や憧れもあります。少林寺拳法の教えに「自己確立」「自他共栄」といって、「よりよい方向に自分を育て、自分の力を他人や社会のために役立てる」という考えがあります。その教えを実践できる人になりたいですね。

## 少数精鋭で関東大会・全国大会で奮戦 精神や礼儀作法も含め教えの実践を目指す



バレーボール部 主将  
経済学部4年

# 古川 ほのか

2019年春季関東リーグ 女子2部  
敢闘選手賞、スパイク賞



**善戦するも1部リーグにあと1歩届かず  
実業団で目指すのはV1への昇格**

創部以来初の入替戦に挑み  
確かな手応えを得る

2019年度春季リーグ戦では、2部リーグ準優勝で、敬愛大学バレーボール部としてはじめて1部リーグ入替戦に臨むことができました。残念ながら松蔭大学に破れて1部昇格は叶わなかったのですが、バレーボール部にとって大きな手応えでした。

その一方で、秋のリーグは5位という悔しい結果でした。私は、昨年度部活を引退したので、チーム作りには関わりませんが、でも新しく着任された福田監督が重視している、相手の動きを読んで相手の予測に反する動き方をしようという点については、チームのムードを意識してよくすることが大切なのだと後輩たちに伝えたいですね。点が決まらない時にチームが暗くなる、相手を観察することも、意志の疎通を図って自分たちで試合を組み立てることもできます。

私の強みは試合中にめげないこと。スパイクが決まらないときこそ、ひたすら打って打って打ちまくって自分の調子を

持ち上げていく。メンタル面では誰にも負けないくらい強い心です。

調子が悪いときこそ笑顔で  
チームを盛り上げていく

だからといって根っから明るいキャラというわけではなかったんです。高校時代は監督に怒られて、試合中はずっと下を向いたままという日もよくありました。でも敬愛大には、のびのびプレーできる雰囲気があるって意識が変わりましたね。試合中は、みんなに声をかけ、誰かが点を決めたら自分が最初に盛り上がりつつ無理矢理にでも楽しんで、ごめいさす笑っておくのが私流のやり方です。

4月からは、実業団のGSS東京サンビームズでバレーを続けます。就職が決まっていたのですが、秋の結果が残せず、このままバレーを終えたくないと内定を辞退してトライアウトに参加しました。GSSは現在VリーグのV2で大学リーグでいえば2部。目標はもちろんV1への昇格で、敬愛大で果たせなかった1部昇格の夢をVリーグで果たします。



## 叱咤激励し合える仲間と 練習を重ねる団体・個人戦と もに貴重な勝利をマーク

相手を冷静に観察し、  
勝ち取った準優勝

今期は主将としてまとめ役に

硬式テニス部はこれまで男女混合で活動してきましたが、今年度から男子部と女子部に分かれて活動することになりました。私は、2020年1月から女子部の主将を務めています。

過去の大会ではチームとして中々勝利することが出きず敗退することが多かったのですが、2019年度女子は、団体戦、個人戦共に勝利を取ることができました。

団体では千葉県学生テニス対抗戦優勝、個人では、千葉県学生テニストーナメント大会シングルスで準優勝を果たしました。試合では、最初相手の様子を観察するところからはじめるのが私のスタイルです。本大会では、対戦相手の選手のサーブの早さや、この辺で球を受けるときに返せるかを試合の早い段階で見極められたことが功を奏しました。

私がテニスを始めたのは中学1年のとき。高校でもテニス部に入部して取り組んでいました。スランプに陥ったりして何度もテニスをやめようと思ったのですが、テニスが好きという気持ちだけはコートに戻っていました。経済学を学びたくて敬愛大学に入学したので、テニスをするつもりはなかったのですが、やはりテニスが好きでテニス部に入り、気付いたら夢中になっていました。

私は試合中気持ちが入りすぎて、態度に出てしまう方で、中高時代はずいぶん落ち込んでいました。大学でもついに癖が出てしまったのですが、「ネガティブだめだよ」とか「気にしすぎ」なんて先輩や同期、後輩に言われていたうちに、取り組む姿勢に変化がみえてきました。

今年の目標は、主将としてチームをまとめていくこと。嫌われ役になることも大切なことだと思います。また、経済に興味がある私は硬式テニス部全体の会計も兼任させてもらっています。前向きな気持ちになれて、積極的に行っていることにチャレンジできるのも敬愛大学の良いところかな。



硬式テニス部 女子部主将  
経済学部2年

# 杉田 菜々子

千葉県学生テニストーナメント大会準優勝

